



自分でついたお餅は格別です

黄金小学校 餅つき集会

12月2日、黄金小学校で「餅つき集会」が行われました。

稲作の体験学習でお世話になった地域の方々や、保護者への感謝の気持ちを込めて開かれたこの行事は、毎年恒例の伝統行事です。

餅つきは、生徒ひとり一人が順番に行き、周りからの「ヨイショー！」の掛け声とともに杵を振り下ろし、その重さにふらつきながらも、楽しんでついでいました。

お母さんたちに手伝ってもらいながら、出来上がったお餅は「餡」を包んでお土産に。残りは、雑煮やみたらし、きな粉と一緒に美味しくいただきました。

男子も厨房に入ります！ 『男性栄養教室』

11月25日、保健センターで『男性栄養教室』が開催されました。女性に比べ台所に立つ機会が少ない“世の男性”にもっと「食」に関心を持ってもらおうと企画されたこの催し。お酒のつまみにピッタリな「たこキムチ」「長いもの豚肉巻き」など、市食生活改善協議会提案の合計6品を調理しました。

家庭では包丁を手にするのがほとんどない方もいて、危なかしい場面も…それでも料理の出来映えには自信たっぷりの様子でした。



広げた豚肉で長いものを巻く参加者

市職員に熱弁をふるう永松教授



『これからの自治体マネジメントと職員』とは

11月24日、市役所で『これからの自治体マネジメントと職員』と題した職員研修が行われました。

講師は、今年3月まで室蘭工業大学の教授として伊達市産業振興基金検討委員など市の重要施策の方向性を検討する委員を務め、現在は熊本県崇城大学教授を務める永松俊雄さん。熊本県職員としての勤務経験に基づき、自らが考え自らが決定していく新しい「自治体経営」の手法について、ユーモアを交えながら市職員にいていねいに解説しました。

『自殺予防講演会』

12月5日、カルチャーセンターで、『自殺予防講演会』が開催されました。

講師に北海道医療大学心理科学部准教授の富家直明^{とみいえただ}さんを迎え、平成10年以降、年間3万人を超え社会問題になっている「自殺」と、その主な要因である「うつ病」について解説しました。

講演で富家さんは「参加者の皆さんが、もし守るべき大切な人の異変に気づいたらためらわず、積極的に声を掛けてあげてください」と訴えました。



周囲の関わり大切さを訴える富家准教授

新鮮な魚介類がズラリ！



今年最後の営業『海の母ちゃん朝市』

11月26日、伊達漁港内特設テントで、いぶり噴火湾漁協伊達支所婦人部有志による『海の母ちゃん朝市』が今年最後の営業を迎えました。

毎週土曜日に新鮮な魚介類などを市価より割安で提供する人気の催しの最終日。前日が時化だった影響は多少ありましたが、テント内にはカレイ類やほたて貝などが並び、多くの方々でにぎわいました。

また、この日は赤飯と「たら汁」が振る舞われ、買い物客の冷えた体を温めてくれました。



念願の「南稀府会館」落成

今年から建設が進められていました「南稀府会館」がこのたび完成し、12月3日、菊谷市長や地元自治会の役員などが出席し、落成祝賀会が開催されました。

年間約5,000名の利用があり、これまでサークルや老人クラブの文化活動の中心だった「稀府福社会館」は、施設の老朽化が著しく、早急な建替えが必要になっていました。

建築費は3,250万円、うち1,500万円は（財）日本宝くじ協会の助成金で賄われ、施設規模は240.96㎡、多目的ホール・会議室などを設置。

今後は地元自治会が中心になって、管理・運営を行い、地元以外の方にも広く開放されます。

